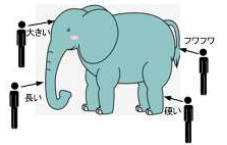


## 球体思考

陰陽五行論は球体思考という考え方が基本にある。人生のある事象に対して、一つの方向だけではなく、多角的な視点で捉えるべきだと教えている。例えば転職をする、引っ越しをするという人生の事象を捉える場合、最低3つ以上の理論から答えを導き出すのが基本であると定めている。その使用する理論は導き出す側が好きに選択していい。まずは天中殺論、位相法、大運年運法で判断して2対1でOKだと出れば実施すればいいし、NGであれば実施しないか、更に別の理論から読み解き精度を上げて、方向性を導き出すのだ。この球体思考には、多様性の重要さが根底に受け継がれている。物事を多角的に多様性をもって判断していく球体思考は、文献には象の有名な例題で記載されている。象という事実がそこに存在している。その象を見てある人は「長い」と想い、ある人は「大きい」と見えて、ある人は「硬い」と受け取り、ある人は「フワフワ」と感じると感じる。さて、どれが事実だろうか、と云う設問である。どれも正しいし、どれも局所的であり、全体像を窺てはいない。人間が窺ているものは、そんなものだと説いているのだ。自分の立場に応じて見え方が変わってくるので、決して事実を窺ているのではなく、自分の見えた真実を抱いているだけなのだ。もし事実をしっかりと見たければ、包括的に多様な視点から物事を捉えないと、自分の慣れ親しんだ立場からでしか物事を見ることが出来ず、他者と衝突を起こし苦悩を味わう事になると戒めているのだ。「まあ、そーいう事も在るよね」とか「そのような視点もあるんだねー」というように多様性を受け入れる意識がないと、差別や貧困や争いを起こしてしまう起因を作るのだ。違うという視点がある。その違いは「間違い」ではなく、「違い」でしかないことを知見として知るべきである。往々にして、私たちは他者との違いを間違いだと認識し易い傾向がある。その視点があなたの人生の課題を創り出す起因となるから、多様性を取り入れた方が効果的な改善が出来る。事実の一つ、真実はその人の数だけある。真実はその人の幻想であり、思い込みであるのだ。だから違う真実を受け入れていかないと、人間関係が壊れてしまう。多様な発想や存在を、受け入れていく事である。球体思考で、物事を捉えていく事である。正に発想の転換である。

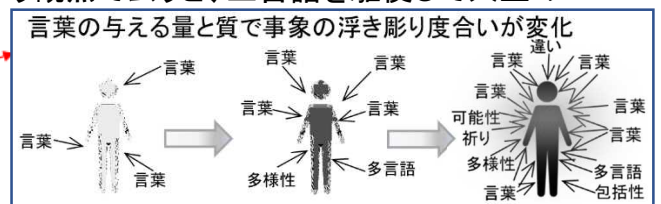


発想の転換をリフレーミングとも云う。視点を変えて、発想を転換させることだ。自分軸の視点だけでは見誤ってしまう可能性もあるので、他人軸の視点でも見る意識を持ちなさいと、私は師からお教え頂いた。その他人軸の視点が多ければ多い程、より精度の高い情報を得ることが出来て、的確な人生判断を行えるのだ。多方面からの情報をたくさん持っている者に、全ての官財が集中するからだ。出来れば5つの視点を取り入れると良いと。まずは直感的に自分の視点で見る。それを真逆の否定的な視点でも見てみる。そしてその両者を客観的視点で見る。その上で、もっと違う変革的な視点でも見てみる。そして最後にはそれらを論理的に包括的に捉えて、決断を導けと教わった。皆様も人生のある決断を成すタイミングで、陰陽五行論から学んだ様々な技巧を、包括的に多様性をもって使ってみると効果的である。そして陰陽五行論の技法だけではなく、人生に対する視点も、上述の様な多様性を持った捉え方をすると、怒りや嫉妬や猜疑心や、しらけてしまう心が消え去っていくだろう。大運法は感応しない、しらける心が最悪だと説いている。その上で「心の在り方」は、一貫性のあるブレない在り方が大切である。以前に解説をした六由心の不動心である。在り方は不動的であり、一貫して軸をぶらせない事が、多様性を取り入れていく上での、大切なポイントである。ともすると、多様性を持ち柔軟になり過ぎると、何が大切なのか混乱が起こってしまう事もあるからだ。視点や技法は多様性を駆使し、在り方は不動心が如く、一貫性のあるブレない在り方である事が大切だ。一貫性を貫く不動心の根本は以前に学んだ通り善悪情智を基盤にするのだ。

ここまでは、陰陽五行論の技術や人生における視点を、球体思考で捉えていくと効果的である事をお伝えした。当然ではあるが、他領域においても同じことが云える。勉強は専門分野以外の勉強

も行った方が効果的であるのはご理解頂けるだろう。読書も専門書だけではなく、違う分野の本も読みなさいと指導を受けた。私は師から、読書は最低3分野の本を毎日読み込めと教わった。専門分野、古典小説、トレンド系は外すなど。そしてそれぞれを細切れの5分間、読んでは閉じ、読んでは閉じて、毎日積み上げよ。一つの本を一挙に読破してはいけない。毎日、少しずつ読み込むことが人間力や仕事力を磨く事に繋がる。仕事も学業もマルチタスクで進んでいく。一つの事に専念して推進できるタスクはほとんどないので、細切れで読み、切りが悪い所でもいいから時間が来たら本を閉じて、その本を読む予定時間になったら、その終わった個所の少し前から読み直す。すると前回までの記憶をたどる事になり、脳が活性化して常に情報と情報のブリッジングをするようになるから、処理速度と精度が格段に上がるのだ。読書を趣味として楽しむ読書は読破していい。ここに記述しているのは、球体思考からの読書と云う手段を使った、人間力アップの方法である。読書を楽しむためにするのではなく、自分を磨くためにこの読書法を実践するのだと教えて頂いたことを強く覚えている。ご興味が出た方は、ぜひ、皆様もトライしてみて頂きたい。かなり効果的な読書法だと自己体験からお伝えできる。

読書だけではなく、言語も同じことが云える。母国語以外の言語形態で一つの事象を眺めることが出来る様になると、一挙に世界観が変わっていく。その上で、陰陽五行論と云う新たな言語形態を皆様は習得をしている最中である。特に学理においては、古めかしい言語表現が多いが、多言語習得は効果的であるという観点でも、皆様にとって、新たな言語形態となる陰陽五行論をしっかりと習得して頂ければ幸いである。また英語でもいい、フランス語、中国語、何でもいいので会話が出来る第二言語習得も同じ様に効果的である。私は高校卒業後に、すぐに入った学校で第一外国語は英語、第二外国語はフランス語を選択したが、特にフランス語は惨憺たる現状である。すっかり忘れてしまった。試験前に一夜漬けで試験を乗り越えたタイプだった。社会人入試で入った学校の多言語習得は、本気で頑張ったので、私はサンスクリット語と漢文は多少読める程度、英語は、ほんの少しだけ読めて話せる初歩レベル程度でしかないが、母国語の日本語を合わせて四言語から一つの事象を眺めていくので、一般の方とは違う世界が見えているのだと思う。また非言語解読には、恐ろしい程の時間を掛けた。非言語習得をしたという観点で云うと、五言語を駆使して人生の事象を眺めている事になる。第二言語の習得は、人生に大きな豊かさを与えてくれる。**多様な言語を多角的に与える事で、自分の存在や事象を浮き彫り化させる事が出来るからだ。**このようにどの領域であろうと、多様性を持ち包括的な球体思考で物事を見ていくと、沢山の情報を入手でき、より精度の高い意思決定を行うことが出来る。必然的に他者との争いや差別や偏見が消える。とても効果的なのでどの分野においても、毛嫌いせずに、今までご自分が触れてこなかったものに触れる、球体思考を取り入れる事を強くお勧めする。勉強も言語習得も仕事も人間関係も、全て筋トレと同じだ。毎日、少しの時間でいいので、コツコツと積み上げていく事である。



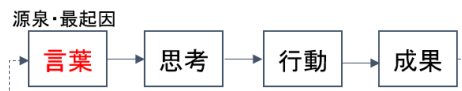
筋トレと云えば、ある塾生の方は、レッグプレスで500kg挙げれるそう。嘘みたいな数字だ。プロのボディビルダーではなく、今年50歳になられる経営者だ。全身の筋肉も立体感が凄い。ここまでになるまでに200日。以前にも筋トレはしていたので、下地があったのは事実だ。コロナ禍で運動する時間がない位に業務変革対応に奔走され、気が付いたら脂肪が付いたそう。そこから一念発起して、レッグプレスで500kgプッシュ出来るまで鍛え上げたそう。200日、毎日欠かさず筋トレと食事管理を行ったと本人曰く。何でも毎日の積み重ねが大きな成果を創り出すものだ。私もレッグプレスをするので、彼の500kgがどれだけ凄いのか体験から理解できるし、もう尊敬の念しかない。ボディーメイクを本業としていない実業家が、専門分野以外をここまで極めるのかと、感嘆




の想いである。専門分野以外をここまで極めるのだから、専門分野は恐ろしく極みを観ているのだろう。その推測は簡単である。ちなみに彼は、レッグプレスをして、何度か失神したそうだ。

違う視点で球体思考を論じてみよう。今年は辛丑年である。先月の帝王学でも解説をした通り、アップダウンを繰り返しながら緩やかに国家運気が上昇していく。

そんな時期は明るい言葉使いをして、古い言語形態を辛と云う宝



刀で切削ぎ落しなさいとお伝えをした。「善き言葉は、善き言霊に通じ、善き結果を導くものである。悲観的にならずに、楽観的な側面を見出す改善をすることだ。」と辛丑年の改良ポイントを記述したのを覚えていらっしゃるだろうか。言葉はその人を縛り、固定観念を創り出してしまふ。それ自体は悪い事ではないが、発展していくプロセスにおいては課題を生じやすい。慣れ親しんだ言語形態を改善して、善き言葉を自ら発して、善き言葉を使う他者と付き合っていく事が改良に繋がる。陰陽五行論的に解釈すると言葉は思考を創り出し、その思考が現実的な行動を支配する。その現実的行動が人生の成果結果を生み出していく。従って、その源泉の起因となる言語を洗練させる事が、運命と云う人生の成果を、善きものにする事に直結する。ここまでの内容、ご理解頂けるだろうか。

ちなみに、言葉は、別名「呪」とも定義している。”ノロイ”なのだ。縛られてしまうのだ。だからあなたの名前は、貴方を呪っていると表現できる。だから子供への命名は、とても大切である。私は師から康仁と戒名を授かった。希望した名ではないが、師から頂いた大切な呪である。個人的に、とても気に入っている。康仁の呪を授かったとき、「あーっ、やっぱり、私は幸運だ。師からこのように豊かなノロイを授けられる位に、大いなる存在に守られ、導かれている」と思った。康仁の康は、庚に通じ、私は年干支が庚戌だ。深いご縁を感じた。庚戌は戦いの神で、勝負に勝ち続け世の中の道なき道を切り開く役目を与えられている。そして帰依したご本尊が、これも希望とは違って、毘沙門天様に結縁を頂いた。毘沙門天王様は天部で種子はベ・ (vai)。別称: 多聞天と云い、四獣神結界の一角を担い、北方の守護神である。財と勝利を司るので、実業界で財を回し、勝負に勝ち続け、道なき道を切り開けというお役目を頂いた。康仁の仁は五徳本能の東方を司り、慈愛で世に尽くせと役割を頂いている。自分にその才能があるかどうかは、ある意味どうでもいい。そのノロイを授かり康仁の呪を掛けられたので、その言語の通りに人生が進んでいくのだ。だから会社名称、社訓、毎日のアフターセッション等の言葉群は何を与えるかで、その呪をかけられ、その方向に導かれる。沙門康仁、今世を呪によって導かれる。こんな感じだろうか。基本的に呪に身を委ねている。

そういえば宮崎駿監督の『千と千尋の神隠し』という映画があった。千尋は尋の字を魔法使いに奪われて、千と名乗れと呪を掛けられる。そして様々な体験から、自分の本当の名前を思い出す。名前という言葉の呪に自分が束縛される。ある意味とても大切な事であり、ある意味その呪を乗り越えていく必要もあるのだ。だからと云って改名を勧めはしないが、今、現時点で自分自身が発する言語の改善は強くお勧めする。呪という言葉は、固定観念を作るからだ。そのワークをしてみよう。ピンクの手のひらサイズの象をイメージする(言葉は呪であり、固定概念を形成する)。如何だろうか。言葉は貴方の思考に大きな影響を与えて、行動に繋がり、現実の成果結果に繋がるのだ。球体思考と云う効果的な思考を動かすためにも、善き言葉を選択的に放っていく方が、より善き人生を歩んでいけるのだ。この塾での共通言語は陰陽五行論である。または五徳本能と表現する。皆様にとって、学び始めたときは外国語に聞こえた事だろう。私もそうだった。まず陰陽五行論独自の漢字が読めなかったし、意味が分からなかった。それでも分からないなりに、毎日コツコツと積み上げることで、飽和量を超えたときに、点と点の知識が線で繋がり、知識が知恵に昇華し、陰陽五行論の世界が一挙に開いていく。そしてその言語形態で世の中に触れていくので世界観が変わり、結果的に人生の成果結果が変わるのだ。どうか億劫がらずに、苦手意識を持たずに、コツコツと共に研鑽していきたい。その練習相手にはなれると自負している。

ここまでは球体思考で、様々な観点から物事を見る事で、人生の成果が改良できると論じてきた。私たちの共通言語である陰陽五行論は、当然学問である。その陰陽五行論は、中国の春秋戦国時代に、それぞれ中国の別の地域で発祥した独自理論を、後世の天才が融合させ、発展したのがこの学問である。密教哲理も同じである。第7祖恵果阿闍梨が北インドで元々あった大日経から成る胎蔵(界)曼荼羅と、それを元により発展した金剛頂経から成る金剛界曼荼羅を、新たな理論体系でまとめ上げたのが両部曼荼羅である。陰陽で発展させた全盛期の中期密教を、第8祖となる空海に授けたのだ。バラバラに配列された胎蔵曼荼羅は陰占と対応し、九会に整然と理論立てて配列された金剛界曼荼羅は段差五行と呼ばれ、幾重にも階層を深めて読み込むことが出来る陽占に対応させた。右図は京都の東寺にある両部曼荼羅である。両部曼荼羅と陰占陽占を比較してご覧頂くと、配置が似通っている事がご理解頂けると思う。様々な角度から物事を見た時、視野が広がる。新たな視点を取り入れて柔軟に対応するから変転変化が起こり、より発展するのだ。視点を変えよ！！これが球体思考のメインメッセージである。形骸化した、古い慣習に捉われてはいけな。何故、会社組織や国家(帝国)を創るのか、それは多様性を取り入れる事で繁栄するからである。同じ組織に同じ価値観の者ばかりが居たら、間違った方向に進んだときに、ブレーキ役になる者がおらず、破滅してしまう。しかし多様性を受け入れる組織や人は、他者との違いを違いとしか認識していないので、ただ「違う」だけである。あの人は間違っているとは思わない。だから多様な化学反応が起こり、変転変化して発展していくのだ。変化しない組織や人間は、水と同じで腐ってしまう。



ちなみに密教哲理は伝授八祖と云い、第1祖龍猛(龍樹)菩薩→第2祖龍智菩薩→第3祖金剛智→第4祖不空三蔵→第5祖善無畏→第6祖一行禪師→第7祖恵果阿闍梨→第8祖弘法大師空海と代々伝法されてきた。これは学校の講義で必ず暗記させられ、試験に出題必須の暗記物である。その空海を師として、私たち真言密教阿闍梨は伝法を受けるのである。第1祖の龍樹菩薩は2世紀のインドに生きた方なので、そこから真言密教が変転変化を繰り返しながら発展して伝法され続けて2000年近くなる。本質的なものは変化しないのだ。日本に伝えられて約1200年以上になる。その密教哲理で定義付けた陰陽の相対性が、陰陽五行論に大きな影響を与えたのは事実である。聞き覚えがある方もいらっしゃると思うが、私の私塾の寺子屋の屋号は第一祖である龍樹菩薩のお名前を頂いた。名は呪であるからだ。古い領収書には龍樹と銘打ってあるはずだ。今となっては恐れ多い事だが。若さからくる至らなさや憧れは、時として恐れ多い行動を起こしてしまうものだ。龍樹菩薩の様に、菩薩行を生きたいと強く願っていた事からの愚行であった。龍樹は著作『中論』で空思想を展開し、この世のあらゆる事象は、それぞれの因果関係上に成り立っていることを論証している。ブッダは、この因果関係を「縁起」として説明している。そして因果関係に依って事象が現れるから、それ自身で存在すると云う独立した不変の実体はない事を論証している。難しい言葉で換言すると自性は無いと云える。これに依って、全ての存在は無自性であり、空であると論証している。龍樹の「空」はこの事から「無自性空」とも呼ばれる。空思想に関しては、何れ詳細を解説していこう。空の中で呪に縛られ、諸行無常との矛盾に苛まれてしまう事を解き明かしていこう。

第八祖の空海は空思想の空を呪として頂いている。俗名は佐伯眞魚と云う。彼が空の呪を頂いている事も何の因果だろうか。そう云えば、2018年2月24日に日中合作映画『空海 KU-KAI 美しき王妃の謎』は史実を元に、かなりのフィクションを入れているが、ある意味面白かった。しかし中国史に詳しくないと、意味が分からない部分が多いのも事実である。時は楊貴妃(719年-756年)が生きた唐王朝。楊貴妃は37年間の短き宿命であった。彼女は第9代皇帝玄宗の皇妃。玄宗が寵愛しすぎたために「安史の乱」を引き起こした。唐王朝を傾けた事から傾国の美女と呼ばれ、世界三大美人の一人である。遣唐使として派遣された阿倍仲麻呂(698年-770年)は日本に帰ること

なく、唐王朝の高官を務めて唐の地で死を迎える。その妻が、楊貴妃の死の真実が記されている阿倍仲麻呂の日誌を持っている事を突き止めた空海は、その謎を解決していくという感じの映画。そのフィクション部分は、普通の推理小説を映画化したのと同じような感じだ。私の所属本山の寺にも、その映画のポスターが貼ってあったので、一人で映画館まで観に行った事を覚えている。

この物語上、若き恵果阿闍梨は父から初期密教(雑密)を学び継承したが、表面的な要素が多過ぎて、もっと根本的な人の本質とは何かを探究したくなる。自分と同じ境遇である異郷の地出身の楊貴妃に共感したが、内乱で楊貴妃が殺されてしまい、大きな苦悩をする。彼は人間が二度と苦痛を覚えない教を探しに行く。物事の本質の探究をしに唐を出て数年、両部曼荼羅を基盤とする密教を確立して唐に持ち帰った。この映画は中期密教の本質を、空海に伝授するまでを描いている。恵果阿闍梨は既に有名な存在であったので、「幻術を操るスイカ売りの男」に変装して町中に入っては、人々の実情を調査していた。その際に入唐したばかりの空海は、変装した恵果阿闍梨と運命的な出会いをする。恵果も空海も互いの素性は知らないままに。そして青龍寺に密教の伝授を申請したが、日本人の空海は断られ続ける。映画の中で空海は変装した恵果に、幻術の破り方を問うが「幻術にも種がある」とだけ伝えられる。諦めかけたとき、空海は青龍寺で恵果阿闍梨との対面を許される。そして空海は、街中で出会っていたあの中国人は、変装した恵果阿闍梨である事を、青龍寺の回廊を歩きながら気付くのだ。その詳細は省く。青龍寺の回廊を抜け、指定の場所で待っていた空海の背後に恵果阿闍梨が表れる。その際の恵果阿闍梨に向けての空海のセリフが印象に残っている。空海は、若き恵果阿闍梨が楊貴妃の死から苦悩し、物事の本質を探究した上で成り立った、中期密教である事を知ったからである。恵果阿闍梨は声を掛ける。「空海か？」それに対して空海は「また会いましたね。苦痛を覚えない物事の本質は見つかりましたか？」と恵果阿闍梨に声を掛けるのだ。天才は天才の天才たるを知るのだ。ここで映画は終わる。

その後半年で空海は密教を習得し、遍照金剛の灌頂名を与えられた。今でも私たち真言密教の阿闍梨は、「南無大師遍照金剛」と毎朝、経ずる。そして師である恵果阿闍梨から、すぐに帰国して日本に本質を伝法せよと指示を受ける。空海は20年の留学期間を、2年で切り上げて帰国した為、朝廷は入京を許可しなかった。帰国後は数年間、福岡の大宰府に滞在することを余儀なくされた。だから今でも福岡の至る処に、空海の教え伝えた密教の痕跡が残っている。博多織で有名な文様は密教の独鈷杵を模している。809年に嵯峨天皇が即位した事を機に入京して以降、空海は嵯峨天皇の側近として、政治家としても大活躍する。

密教は初期、中期、後期に分かれて、初期密教を雑密と云い、中期密教が最も繁栄する。恵果阿闍梨は、雑密レベルではダメだ。もっと純粋に本質のみを捉える様に純化しなければならないと思い立ち、中期密教を作り上げる。この恵果阿闍梨が創出した中期密教を、純密教ともいう。これを空海は伝法を受け、帰国後、比叡山延暦寺を本山とする天台宗の開祖最澄に密教を教える。後に国内で新たな宗派を創出した偉人たちは皆、延暦寺で密教を学び、一般庶民にも本質が解るように簡略化し、シンボリック化していく経緯がある。浄土宗の法然上人、浄土真宗の親鸞聖人、日蓮宗の日蓮たちは皆、比叡山延暦寺で修行をして新宗派を立ち上げた。密教は秘密仏教で限られた者しか知ってはいけないという前提の仏教だからだ。その後、密教のみを純粋に探究する高野山真言宗からは開祖空海以外は有名な阿闍梨が出ないのに対して、ドラックストア的な天台宗からは、多くの名を残す開祖が出ていて面白い。閉鎖的な事象はシュリンクし易い。どんな事象においても、常に変化を取り入れ革新をして多様性を取り入れると発展していく。

今月は様々な側面から球体思考について考察した。多様性を持った言葉に変革する事が辛丑年の動向に相まって、善き改良になる。特に今年は球体思考からなる多様性を取り入れた言語変革を意識していくとよいだろう。